

# 令和7年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 1

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈知 育〉 ○ 主体的に学び確かな学力を身に付けた児童の育成

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	保護者評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知   育	<b>1 授業の充実</b> 「 <b>基礎学力(音読・計算)の向上</b> 」 「 <b>ICT有効活用</b> 」 「 <b>表現力育成</b> 」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業に落ち着いて集中する児童や苦手なことも諦めずに取り組む児童が増えている。</li> <li>○ 主題研究を中心に、共通の焦点化した視点をもって授業改善に取り組み、児童の学力向上につなげる ことができた。</li> <li>○ 授業において積極的にICTを活用できた。</li> <li>○ 個人差が大きいため、学習内容の定着や思考力・判断力・表現力育成のための、「協働的な学び」や「個別最適な学び」に関して継続して研修を深める必要 がある。</li> </ul>	3.32	3.10	3.58	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちの学びたい度や学力が少しずつ上がってきていることは、先生方が懸命に取り組まれている結果だと思います。</li> <li>○ 南小学校の教職員の方々は、熱意をもって指導してくださり、それぞれの課題にきめ細かい配慮で対応してくださって感謝です。</li> <li>○ 先生方はICTの活用を図り、確かな学力を身に付けさせようと努力され、学力の向上につながっているようです。いい傾向だと思います。</li> <li>○ 学校運営協議会等において、校長先生や教頭先生の説明を伺っておりますと、全てにおいて子どもたちに真摯に一所懸命向き合ってくださいることが分かります。また、会議後、全学年を参観させていただいておりますが、子どもたちの授業中の表情胎動を見てもそのことを伺い知ることができます。</li> </ul>
	<b>2 家庭学習の充実</b> 「 <b>週末宿題原則廃止と自発的学習の推奨</b> 」 「 <b>タブレットPC活用宿題実施(水曜)</b> 」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 週末宿題をなくしたことで、平日の宿題の提出率が良くなっている。ただし、週末に自発的な学習に取り組む児童は限られているため、週末の過ごし方について、ある程度の指針を示す必要がある。</li> <li>○ 3年生以上で毎週水曜日にタブレットでの課題を出すことで、学力の定着を図ることができた。今後は、家庭学習においてもAIドリル等の積極的な活用を図る必要がある。</li> </ul>	3.42	3.39	3.33	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 週末宿題の廃止により、平日の宿題の提出がよくなったが、自発的に学習に取り組む児童がもっと増えるといいですね。</li> </ul>
	<b>3 読書活動の充実</b> 「 <b>家庭読書</b> 」 「 <b>読み聞かせ</b> 」 「 <b>すきま時間の読書推進</b> 」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 貸出冊数平均については、担任や委員会等の呼びかけにより、一定の成果を挙げているが、個人差があるため、少ない児童への働き掛けが必要である。</li> <li>○ 家庭での読書量にも個人差があるため、メディアとのバランスを意識した取組推進も大切である。</li> </ul>	2.70	3.12	3.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書貸出冊数に個人差があるようです。保護者と連携をとり家庭での読書も身に付けさせるよう働きかけが必要だと思います。</li> </ul>

<p><b>4 学力調査等の活用</b> 「結果分析と対策の推進」 「過去問題活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元テストは目標平均は超えているが、個人差が大きいため、定着の工夫が必要である。</li> <li>○ 「全国学テ」(6年)や「みや学テ」(4年)、CRT(全学年)に向けて、問題分析を行い意識して授業に取り入れたり、過去問を活用して練習に取り組みせたりすることができた。</li> <li>○ 分析結果を授業に生かしたり、習熟を図る時間を確保したりするために、検討を重ね全校で共通実践する必要がある。</li> </ul>	3.10		3.33	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「全国学テ」は、国語は平均以上、算数は平均以下です。単元テストは良いようですが、個人差が大きいので定着の工夫をしなければいけませんね。</li> </ul>
<p><b>5 特別支援教育の充実</b> 「特別支援教育支援員や学校非常勤講師の有効活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特支コーディネータを窓口、特別支援教育支援員を配当し、支援が必要な児童に対して学習面・生活面の個別の支援を行うことができた。</li> <li>○ 学習支援ボランティア2名の方にも、低学年を中心に必要に応じて授業に入ってもらい、個別の支援をしていただいた。</li> </ul>	3.05	3.40	3.42	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の支援が必要な児童にやさしく寄り添い少しでもお役に立てればと思い支援ボランティアに参加させていただきました。</li> </ul>
<p><b>6 学習のしつづけの徹底</b> 「授業」「家庭学習」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習の約束」については、継続して指導を行い、やや学級差はあるが、児童にしっかり定着しつつある。担当からの定期的な呼びかけも必要である。</li> <li>○ 特に「話の聞き方」は高学年を中心に一人一人がしっかりと意識できている。今後も、個別指導や継続指導で、しっかり身に付けさせていきたい。</li> </ul>	3.38		3.83	特記なし
<p><b>7 一部教科担任制等による指導の充実</b> 「交換授業」「各種専科」等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一部教科担任制は学年の児童理解の充実や教材研究を深められ大変有効であった。</li> <li>○ 専科の時間に主要教科の準備ができたり、教材研究の負担が減ったりするなど、働き方改革にもつながっている。</li> <li>○ 児童を複数の職員で見ている組織体制は、今後も継続する必要がある。</li> </ul>	3.57		3.92	特記なし
<p><b>8 キャリア教育の充実</b> 「小林キャリア教育センター」 「KSSVC」「地域人材・団体」 「学習支援ボランティア」の活用等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係機関と連携することで、児童にとって大変貴重な体験活動の機会となった。今後も学習内容に合わせて、地域人材等の計画的活用を図る必要がある。</li> <li>○ キャリア教育の視点として、学校行事に協力していただくだけでなく、地域行事に積極的に参加していくことを推進していくことも大切である。</li> </ul>	3.20	3.61	3.83	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地区の住民との交流、昔の遊び体験や七夕づくり等も、素晴らしい取組だと思います。</li> <li>○ 南校区まち協、南校区社協との連携により、地域の方々と他ではできない貴重な体験学習ができました。今後も続行していきたいですね。</li> <li>○ まち協や社協等の多世交流事業において、限られた時間ではありますが、先生方や子どもたちに接していると、全ての項目において評価することは難しいですが、南小学校の児童たちはすくすくと健全に育っていると実感しております。</li> </ul>

# 令和7年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 2

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈徳育〉 ○ 思いやりの心をもち、自ら実践する児童の育成

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	保護者 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	<b>1 望ましい生活に関する指導の充実</b> 「時を守り、場を清め、礼を正す環境づくり」 「挨拶・返事・履物揃え」の徹底指導	○ 全体指導や個別指導により、基本的な生活習慣についてほとんどの児童が身に付いてきており、落ち着いた学校生活を送ることができていた。あいさつや廊下歩行等については、まだ個人差や学級差があり、学校全体や家庭と連携した取組をより充実させる必要がある。 ○ 生活のきまりについて、定期的に振り返る機会を設けて対策を検討するなど、より落ち着いた学校生活を目指していきたい。	2.91	3.48	3.58	○ 基本的な生活習慣は身に付いているようですが、挨拶等については個人差、学級差がありますね。家庭環境にもよると思いますので一層の指導をお願いします。
	<b>2 道徳教育・人権教育の充実</b> 「道徳科授業」 「情報モラル」 「言語環境」	○ 道徳の授業については、道徳的心情の育成に向けて、工夫改善することができた。 ○ 日常生活において、思いやりのある言動が多く見られる反面、言葉遣いの乱れ等、言語環境を整える必要がある。 ○ 情報モラル、メディアリテラシーの計画的系統的な指導が必要である。	3.05	3.48	3.58	○ 思いやりの心をもち自ら実践する児童の育成を目標として徳育がなされ、不登校がほとんどないのはすばらしいことだと思います。
	<b>3 不登校・いじめ問題に関する指導の充実</b> 「不登校・いじめ・問題行動への対応」 「関係機関との連携」	○ 不登校やいじめ、問題行動等については、「いじめ不登校対策会議」で共通理解や対応の協議を行い、改善に向けた対応をとることができた。必要に応じて臨時にケース会議を行うなど、組織的な対応の流れを整える必要がある。 ○ 必要に応じて、関係機関(SSW、SS、SC、子ども課等)との連携を図りながら対応を進めることができた。	3.00	3.40	3.50	○ いじめや不登校に、早めに対応されているので早く解消されたり、不登校の子供に対しても、保護者のご意見でも有難い言葉があり、適切な寄り添った対応がされているのだと思います。 ○ 先生方は「いじめ不登校対策会議」で共通の理解を図り改善に向けて努力されています。
	<b>4 主体的な活動の推進</b> 「清掃」「係活動」「委員会活動」 「家庭でのお手伝い」	○ どの委員会活動でも、児童が主体的に活動する姿が多く見られた。 ○ ボランティア活動に関して、呼び掛けたり称賛したりすることで、より充実させたい。 ○ 家庭でのお手伝いについて、今後も家庭と連携して推進していきたい。	3.19	3.60	3.83	特記なし

令和7年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 3

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈体 育〉	○ 健康や体力に関心をもち、自ら行動する児童の育成
-------	---------------------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	保護者 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体 育	<b>1 体力・運動能力の向上</b> 「体育の授業の充実」 「行事等の工夫」 「設営や施設活用の工夫」	○ 体育科授業における運動量の確保を中心に充実した指導を行うことで、運動意欲や体力の向上につながっている。 ○ 時期に応じて、全校での取組を行ったことで、運動意欲が高まり、昼休みなど多くの児童が外遊びをする姿が見られた。	3.57	3.49	4.00	○ 体力・運動能力テストが90%という結果は素晴らしいです。楽しく体育の授業に取り組める工夫、昼休みの外遊びの結果ですね。 ○ 昨年度を上回り県平均を超え体育専科の先生を中心とした細かな努力が向上につながったのですね。
	<b>2 姿勢等の指導の徹底</b> 「立腰指導の充実」 「集団行動様式」 「鉛筆の正しい握り方」	○ 始業、終業時の立腰は全学年で徹底できているが常時、よい姿勢を維持することは難しい状況である。 ○ 正しい姿勢(話す・書く・読む)や鉛筆の握り方等、学習中の指導事項について職員で共通認識のもと、全体指導や 個別指導を継続して行うことで、定着を図っていく必要がある。	3.05	3.61	3.75	○ 「立腰」は、常時維持することは特に低学年では難しいようですね。
	<b>3 家庭と連携した健康教育の推進</b> 「むし歯」 「メディアコントロール」	○ むし歯等の治療勧告については、養護教諭から定期的に配付しているが、保護者の意識が高いところとそうでないところがあるため、工夫が必要である。 ○ メディアコントロールについては、講演会を実施したり、「メディア利用ルール」作りに取り組んでもらったりして、児童や保護者の意識を高めることができた。	2.95	3.38	3.17	○ 家庭におけるむし歯治療がなかなか難しい点が気になりました。

# 令和7年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 4

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈食育〉	○ 食に関心を持ち、自ら実践する児童の育成
------	-----------------------

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	保護者評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
食育	<b>1 「弁当の日」を核とした食に関する指導の推進</b> 「発達段階に応じた弁当作りの推進」 「弁当の日」作品展への参加 「給食委員会児童を中心とした企画」	○ 遠足やふれあい活動に合わせて「弁当の日」を設定したり、写真展を実施したりしたことで、食への関心を高めることができた。 ○ 夏休み等、時間にゆとりがあるときに実施してはという意見もあった。	3.40	3.71	3.75	○ 「弁当の日」は、食への関心を高めることができ、よかったですね。保護者によっては平日だと負担が大きいとの意見もあるようです。
	<b>2 給食の時間の指導の充実</b> 「偏食や残食」 「マナー」 「地産地消」「よく噛んで食べる大切さの指導」	○ 給食の指導の共通理解した内容について、できていない部分もあったので、足並みを揃えた実践が大切である。 ○ 偏食のある児童もいるが、学校全体の残食率は低さを保っている。	3.15	3.41	3.50	○ 給食の残食は少ないという結果が見受けられるので、素晴らしいです。 ○ 給食の指導は難しいので、手間をかけながら指導をされておられるようですね。家庭でもマナーを教えることが大事だと思います。
	<b>3 食物アレルギーを有する児童への適切かつ確実な対応</b> 「体制の維持及び改善」 「職員研修」	○ 食物アレルギー研修を年度当初に行い、全職員で共通理解のもと対応することができた。 ○ 職員の意識が高く、二重、三重のチェック体制になっており、きめ細やかな配慮ができています。	3.62	3.78	4.00	○ 食物アレルギーの研修を先生方はされているとのことで、とても大切なことをしっかり学ばれて対応されていて有難いです。 ○ 食物アレルギー児童への対応を計画的研修を行い安全面を配慮してくださっていて安心だと思います。

# 令和7年度 小林市立南小学校 学校関係者評価書

評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

NO. 5

学校経営 ビジョン	○ 南小学校の伝統を大切にし、児童、教職員、保護者、地域が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という当事者意識をもち、次代を生き抜く自立した人材を育てる学校として創意と工夫をこらし、活気ある教育活動を展開する。 令和6年度スローガン 『みんなでつくる みんなの南小学校』
--------------	--

〈その他〉	○ 服務規律の徹底と子どものための働き方改革の推進
-------	---------------------------

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	保護者評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
そ の 他	<b>1 服務規律の徹底</b> 「法令及び倫理等に反する行為ゼロの維持」	○ 職員一人一人がコンプライアンス意識を高めるために、研修や働き掛けを行い、大きな非違行為等は無かった。	3.45	/	3.83	特記なし
	<b>2 働き方改革の推進</b> 「業務の精選」 「SSSの積極活用」 「学習支援ボランティアの積極活用」	○ タイムマネジメントを行いながら業務を行う職員が増え、時間外勤務削減につながっている。 ○ 業務量をできる限り平準化することや、学校と家庭地域の役割分担の明確化等、さらに改善を図り、ゆとりをもって仕事ができる環境づくりを目指したい。	3.23	/	3.75	○ 先生方の残業を少なくする工夫は難しいのかもしれませんが、ただでさえ忙しく大変な仕事なので少しでもゆとりをもってもらいたいです。 ○ 学習支援ボランティアについては、これからも微力ですが児童一人一人にやさしく寄り添い支援をさせていただきたいと思います。担任の先生方の一助になればうれしいです。

次年度の方角性についての校長所見	1 本年度の取組について 本年度も、保護者や地域の方々への理解・協力をいただき、学校行事や教育活動に取り組み、「知」「徳」「体」「食」において成果を残すことができた。それぞれの重点目標の達成に向けて、様々な取組を工夫することで、改善された部分も多く見られた反面、課題点も明らかになった。特に、「読書活動の充実」や「望ましい生活に関する指導」、「家庭と連携した健康教育」等については、自己評価がやや低いため、改善のための手立てや工夫が必要であると感じている。「学力向上」に関しても、引き続き工夫改善が必要である。
	2 次年度への改善に向けて 次年度は、本年度の重点目標を継続しつつその達成に向けた取組について、本年度の課題をもとにより一層の工夫改善を図っていきたい。その際、保護者や地域、外部機関等の理解や協力も得ながら、教育効果の向上を図っていききたい。そのことが、児童のさらなる成長につながるようにしていきたい。